

国立大学法人九州工業大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和6年8月30日
国立大学法人九州工業大学
学長選考・監察会議

国立大学法人九州工業大学学長選考・監察会議規程第3条第1項第4号に規定する学長の業務執行状況について確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

- (1) 令和6年度第1回経営協議会（令和6年6月18日開催）において、学長から「業務執行状況の報告」があり、質疑応答が行われた。
- (2) 経営協議会終了後に、令和6年度第1回学長選考・監察会議を開催し、業務執行状況の確認方法とスケジュールについて確認が行われた。
- (3) 令和6年度第2回学長選考・監察会議（令和6年8月メール開催）において、学長の業務執行状況について最終的な確認を行った。

2. 確認方法

学長の業務執行状況の確認にあたり、学長による業務執行状況の報告および質疑応答のほか、以下の資料等を参考に行った。なお、令和6年度第1回および第2回学長選考・監察会議において監事も出席し、その意見を反映した確認結果となっている。

（参考資料）所信表明書、令和5年度監事監査報告書

3. 確認結果

学内外の様々なステークホルダーの意見を取り入れながら、世の中のトレンドを先取りした取り組みや改革をスピード感を持って推進している。特に九工大初の特別目的会社（SPC）として設立した Kyutech ARISE は、社会のニーズを的確に捉え、九工大としてのリカレント・リスキリング教育の方向性を示しており、今後、社会に大きく貢献することが期待される。また、国内外の教育研究機関等との連携を積極的に進めており、連携による双方の強みを享受しあえる体制の構築は、九工大だけに留まらない広範なメリットを生んでいる。また、事務業務をはじめとした業務改革、DX化にも意欲的に取り組んでおり、全国の大学の参考となるような成果を期待している。

今後、より加速度的に九工大のビジョンを達成していくためには、KGI や KPI を明確に設定するなど構成員のベクトルを揃えながらの業務遂行を心掛けてもらいたい。また、多くの成果を上げているにもかかわらず、それらが地域や社会に十分に伝わっていないと見受けられるため、情報発信の改善に取り組み、九工大のプレゼンスの更なる向上を期待したい。